

2020年5月21日

智頭急行株式会社

2019年度の智頭線の輸送人員について

輸送人員全体では1,122,955人(98.2%)と20,958人の減となりました。1日平均は3,068人と66人の減となりました。

1. 特急列車利用状況

特急列車輸送人員〔上期(113.4%)、下期(86.3%)、通期(98.7%)〕

上期は、10連休となったゴールデンウィークの影響、前年度に発生した大阪府北部地震や「平成30年7月豪雨」の反動などにより、対前年度113.4%と大きく上回り、2009年度以降の11年間で最も多くなりました。

下期に入り、10月の台風接近、全国規模の大会の減少、年末・年始期間は天候に恵まれ他の交通手段への移行などもあったものの良好に推移していました。しかし、2月以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止として、政府の要請による学校の臨時休校並びに旅行、企業の出張、各種イベント等の自粛の広まりなどから、2月末までは対前年度104.5%と前年度を上回っていましたが、3月単月では前年度比56.3%減と半分以下にまで大きく減少し、年度累計では848,751人(98.7%)と前年度を11,332人下回り、過去5年間で最も少ない輸送人員となりました。

(1) スーパーはくと〔上期(112.4%)、下期(85.8%)、通期(97.9%)〕

輸送人員は598,990人(97.9%)と前年度を12,866人下回りました。

上期は前年度を大きく上回りましたが、下期に入り、特に3月は新型コロナウイルス感染症が大阪・兵庫地区で拡大傾向となり移動の自粛が促され、京阪神地区からの入込み、同地区への送出しが大幅に減少し、3月単月で前年度比57.7%減と大きく落ち込み、年度累計では対前年度97.9%と前年度を12,866人下回りました。

(2) スーパーいなば〔上期(115.8%)、下期(87.6%)、通期(100.6%)〕

輸送人員は249,761人(100.6%)と前年度を1,534人上回りました。

前年の7月豪雨は、岡山県南部地域の甚大な被災により12日間の運転休止となったため、今年度の上期はその反動から前年度を大きく上回りました。下期に入り、特に3月は新型コロナウイルス感染症拡大の防止として移動の自粛が促され、3月単月で前年度比52.9%減と半分以下にまで大きく減少したものの、年度累計では対前年度100.6%と前年度をわずかに上回りました。

2. 普通列車利用状況

輸送人員は274,204人(96.6%)と前年度を9,626人下回りました。

2月まではほぼ前年度並で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う高等学校の臨時休校、出控え等の広まりの影響などにより3月は前年度比45.3%減と大きく下回りました。1日平均では749人で前年度の778人を下回りました。3月の落ち込みが大きかったため、定期、定期外ともに前年度より減少し、年度累計では、定期は163,140人(98.0%)と前年度を3,300人下回り、定期外は111,064人(94.6%)と前年度を6,326人下回りました。

列車別輸送人員

(単位：人、%)

区 分		2019 年度	2018 年度	対前年度	増減
スーパ はくと	人 員	598,990	611,856	97.9	△12,866
	乗車率	44.0	47.2		
	1日平均	1,637	1,676		
スーパ いなば	人 員	249,761	248,227	100.6	1,534
	乗車率	48.2	51.0		
	1日平均	682	680		
特急列車 合 計	人 員	848,751	860,083	98.7	△11,332
	乗車率	45.2	48.2		
	1日平均	2,319	2,356		
普通列車	人 員	274,204	283,830	96.6	△9,626
	1日平均	749	778		
総 計	人 員	1,122,955	1,143,913	98.2	△20,958
	1日平均	3,068	3,134		

お 問 い 合 せ
運 輸 部 営 業 課
電 話 0858-75-2595

輸送人員の推移

